

令和7年10月8日

保護者の皆様

南城市立馬天小学校

校長 瀬底 正栄

(公印省略)

児童の成長と安全のために(ピアス・染毛に関するお願い)

最近、学校内でピアスをしている児童や髪を染めている児童が見受けられるようになりました。そこで、保健指導を行う予定です。以下の点についてご理解とご協力をお願いします。

1 健康リスク

ピアスを開けたり髪を染めたりすることで、感染症やアレルギー反応が発生する可能性があります。特に小学生は、適切なケアを行うことが難しいため、健康リスクが高まります。

2 よい子の生活 (馬天小学校のきまり)

学校は学びの場であり、児童が集中して学習できる環境を提供することが重要です。本校では、「学習用具以外のものは学校に持ってきません」と定めています。

3 体育の授業等でのリスク

ピアスを着用していると、体育の授業や休み時間遊んでいるときに引っかかりやすく、ケガをするリスクがあります。特に運動中は動きが激しくなるため、ボールや他の児童との接触や引っかかる可能性が高まり、強い衝撃が加わり、ピアスが耳に食い込んだりすることがあります。また、汗をかくことで感染症のリスクも高まります。

4 進学先の校則

進学先の佐敷中学校では、●ピアスの着用を含め「化粧、アクセサリー、マニキュアは禁止とする」●「髪染色はしない」●「極端な眉ぞりはしない」と決められています。小学校のうちからこのルールに慣れておくことで、スムーズな進学と適応に繋がるように、馬天小学校でも禁止しています。ただし、特別な理由があって、やむを得ない場合はご相談ください。

以上の理由から、児童がピアス、染毛をしないようご指導いただきますようお願いいたします。

※次ページに、参考資料を載せています。(少年写真新聞社「おしゃれ障害」より掲載)

ピアスなどのアクセサリー

おしやれのアイテム「アクセサリー」による金属アレルギーなどのトラブルは、毎年後を絶ちません。特にピアスにおいては、ボディピアスの流行で、耳たぶにとどまらず疾患の部位も多様化し、また低年齢化による金属感作(14ページ参照)率の上昇も指摘されはじめています。

金属アレルギーは、一度起こしてしまうと一生原因となる金属を避けて生活しなければいけないこともある、誰にでも起こりうる障害であることを知っておきましょう。



※ピアス肉芽腫：ピアスの穴から細菌が入り、傷口より大きく、赤く腫れあがっていました。



耳ピアスは、(風は垂れているので)下に引っばられたり、擦れている時に触にされるなどピアス肉芽腫

やピアスクロイドになりやすく、

その他のボディピアスは、衣服とすれて炎症をおこしたり、化膿しやすいといえます。

異常を感じたら、放置せず、早めに治療を受けることが大切です。

ピアスはトラグルが多い！

ピアスは、アレルギーや感染による炎症だけではなく、開けた穴を潤滑しすぎて、傷口を広がけてしまったり、消毒液自体の刺激によってかぶれてしまうなど、トラグルが新しいアクセサリーといえます。



金属によるかぶれに加え、二次感染を起こし、化膿してしまいました(へそ)。

*ピアスのトラグル

金属アレルギー



皮膚に直接穴を開けるため、金属が体液に直接触れる状態になるので、金属アレルギーを起こしやすいです。

肝炎などの感染症



きちんと衛生管理がされていない状況で、ピアスの穴を開けることにより、肝炎やエイズなどの感染症に感染する危険性もあります。

*ピアスクロイド



傷の周囲が、大きく赤く腫れあがったま固くなり、痛みやかゆみをとまなう皮膚の異常(クロイド)を主生することがあります。

ピアス霜焼け、ピアスやけど



金属は熱伝導率が高いため、スキー場や雪の砂浜などでは、しもやけややけどになりやすく、注意が必要です。



●自分で、または友達同士でピアスの穴を開けたり、同じ針を使い回すのは絶対にやめましょう。

●ピアスをする前に、皮膚科でアレルギーパッチテストを受け、自分に合わない金属をあらかじめ確認しておくことが大切です。

●特に、金属アレルギーが疑われる人は、ピアスは選べた方が賢明です。どうしてもする場合、きちんと素材を選ぶようにしましょう。

●金属に触れる部位が多いほどアレルギーを起こしやすいので、安易な複数のピアッシングは、体のために賢明ではないと心得ましょう。



パッチテストの例

茶髪（染毛、脱色）

染毛や脱色で多いトラブルはアレルギーです。染毛剤には多くの化学物質が使われており、アレルギーを起こすと、頭皮が赤くかゆくなり、脱毛液が出たり、皮がむけたりします。

染毛剤によるアレルギーは、使用し続けているうちに突然起こります。染毛剤に対するアレルギーは、一度出たら一生変わりません。また最近では、染毛剤中の成分に環境ホルモンの作用をするものがあるとの報告もあり、安易な使用は控えた方が安全です。



※脱色剤（ヘアブリーチ）とは
毛髪中のメラニン色素を酸化分解することにより脱色するもので、主成分は過酸化水素（水）です。毛髪へのダメージも非常に大きくなります。

* 染毛剤の種類と染毛の方法

毛髪の断面

毛小皮 毛皮質 毛髓質

一時着色剤

着色料を、毛髪の表面に付着させます。

半永久染毛剤

着色料を、毛髪の表面部に浸透・吸着させます。

永久染毛剤

着色料を、毛髪の内部まで浸透・染着させます。

毛表皮（キューティクル）

●一時着色剤…効果は一時的で、一回の洗髪で洗い落とすことができます。
●半永久染毛剤…酸性染料を用いたもので、ヘアマニキュア、カラーリンスなどにあたります。洗髪のたびに少しずつ落ちていきます。
●永久染毛剤…脱色させるとともに、酸化染料を浸透させ化学反応（酸化）で染着させます。白髪染めやおしゃれ染めがこれにあたり、使用されるパラフェニレンジアミンは大変かぶれやすく、また酸化剤やアルカリ剤により毛髪を傷めやすいため、トラブルも多くなっています。

参考文献：物理・化学（化学：香粧品化学）／（株）日本研究教育センター

* 染毛剤の含有成分（アレルギー、環境ホルモン）

<<<<< 取り扱い扱い説明書をよく読みましょう！>>>>>

<特に注意すべき染毛剤含有成分とその作用>

- パラフェニレンジアミン
染毛剤・着色料として広く使用されていますが、大変かぶれやすい成分で、発がん性も疑われています。
- レソルシン
発がん性が疑われています。
- パラベン
環境ホルモン作用を指摘されていますが、化粧品一般に添加されており、アレルギーを起こすこともあります。



染毛剤には、**酸・アルカリ**が使用されているため、**肌が敏感になりやすい**生理中などの使用は避けるようにとの注意が書かれています。



環境ホルモンとは？

内分泌かく乱化学物質が正式名称。ホルモンとは内分泌腺から分泌され体各部の機能を保つ物質で、血液などによって体内の各器官に運ばれ、その器官の働きを適正に調節しています。内分泌かく乱化学物質は、こうしたホルモンと類似の作用をすることによって、体内に影響を与えます。また研究段階の分野であり、どのような害があるのかなど、これからの研究成果の発表を待たなくてはなりません。決して安全なものではないため注意が必要です。

